

平成29年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議議事録
—九州支部—

日時：平成30年3月8日（木）13:30～16:00

場所：ウェルとばた 3階 31, 32会議室

1 開会

2 挨拶

北九州市保健環境研究所 所長 山下 俊郎

3 議事

(1) 環境測定分析統一精度管理調査について

環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室 室長補佐 石関 延之 氏

(2) 平成29年度環境測定分析統一精度管理調査結果について

一般財団法人 日本環境衛生センター 環境事業第二部 課長代理 佐々木 秀輝 氏

(3) 環境測定分析における留意点及び精度管理について

- ・国立研究開発法人産業技術総合研究所

環境管理技術研究部門 計測技術研究グループ長 中里 哲也 氏

- ・元 一般財団法人 日本環境衛生センター 環境科学部 西尾 高好 氏

- ・環境省環境調査研修所 教官 渡辺 靖二 氏

(4) 質疑応答

(質問) BOD が項目となる場合には、試料量の増加について検討していただきたい。

(回答) 送付している試料量は十分な量になるよう、あらかじめ計画して配布している。ただし、試料に余りがあれば、追加で提供できるので事務局に問い合わせしてほしい。

(質問) 共通試料2について公的機関の参加数が少なかった要因はどのようにお考えか。

(回答) 窒素酸化物のみ参加数が少ない。民間機関は依頼があれば分析を行っているが、公的機関は自動分析が主になっていて、手分析を行っている機関が少ないのではないかと考えている。

(質問) ふっ素の蒸留を行ったところ、回収率が71%であった。今回、Wako 社製二酸化ケイ素（無機分析用、99.9%、白色粉末）を使用した、特級の試薬であれば回収率が上昇する等の知見をお持ちか。

(回答) 回収率が70%程度あったのであれば、試薬の純度の問題ではないと考える。操作が煩雑であるので、もう一度操作方法（温度等）を確認していただきたい。

(質問) BOD の植種液はどのようなものを使用しているのか。

(回答) 各自治体状況を説明

(質問) Grubbs の検定について簡単に教えていただきたい。

(回答) ばらつきの平均値をとり、両端を切って外れ値を見つけ出す検定である。

(質問) 測定した試料の濃度が、使用する検量線の濃度域の5割程度であればよいとの説明があった。精度管理の参加方法として、通常使用している検量線で測定し、検量線の濃度域が合っていない場合は検量線を引き直して再度測定するのが正しいのか。

(回答) 精度管理のために検量線を引き直す必要はなく、通常通りの方法で分析してよいが、検量線の中央付近であれば不確かさは小さくなるので測定精度は高くなる。

(質問) BOD の値は容器の素材によって変わるのか。

(回答) 容器によって値が変わることはない。ただし、容器に汚れ（金属等）が付着していると値が変わる恐れがある。

(意見) 公的機関の分析の実態に合った試料であれば、参加しやすい。

4 次期開催機関挨拶

鹿児島県環境保健センター 水質部 水質部長 大庭 大輔 氏

5 閉会